

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 a || ロ b || ハ c || イ

(2点×3)

問二 社会契約論を「約束の思想」として読む(18字) ※解答通り

(4点)

問三 二

(6点)

問四 X || イ Y || ハ

(4点×2)

問五 市場には、売り手や買い手が誰かを問わないことで

A 2点

B 3点

不平等や不正を覆い隠す機能があり、

C 2点

自分に悪意のないまま、

D 3点

背後の不正や搾取に加担している可能性があると考えらるから。(79字)  
(10点)

A (2点) 市場には、売り手や買い手が誰かを問わないことで

※「市場には」がなかった場合、Aは無得点。

※「誰」が漠然としている || 「(商品の) 売り手や買い手」という補いがない場合は減点1点。ただし、「商品がどのような関係で作られたか」など、ここでいう「誰」を説明しているとみなせる説明があれば2点与える。

※「(市場にある) 商品のみを通じて」などでは説明不足で不可。

B (3点) 不平等や不正を覆い隠す機能があり

※「市場には」を受けた内容でなかったらBは無得点。

C (2点) 自分に悪意のないまま

D (3点) 背後の不正や搾取に加担している可能性があると考えらる

※「不正や搾取に」と「加担している」がそろって3点を与える。

A 2点

問六 社会関係が結ばれる条件、

B 2点

社会が最低限守るべき事柄を、

C 3点

約束をする人々に一つ一つ明示し、

D 3点

そこでとり結ばれた関係の基本要素に人々が責任を持つもの。(70字) (10点)

※まず最初に、「約束」「条件」「責任」の3語がそろっていることが採点条件。1語でも欠落していた場合は、全体の得点を与えない。

A〔2点〕社会関係が結ばれる条件

※「秩序の条件」も可。

B〔2点〕社会が最低限守るべき事柄を

※A・Bは「条件」「事柄」だけでは得点を与えず、それぞれまとまった語句として得点を与える。

C〔3点〕約束をする人々に一つ一つ明示し

※「明示し」は、その語を使わなくても「人びとの目に見えるようにする」「言葉にし」など、同内容であれば可とする。但し、「約束する人びとに」がなかった場合は、1点のみ与える。

D〔3点〕そこでとり結ばれた関係の基本要素に人々が責任を持つもの。

※「基本要素に」↓「責任を持つ」のワンセットで得点を与える。「基本要素」を欠く場合はD全体2点。

問七 ハ (6点)

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 理路
- 2 示唆
- 3 粹
- 4 汎用

※解答通り

問二 4点

## 創意工夫

※解答通り

問三 6点 (模範解答例)

A ○2点

神との接触を感じさせる

B ○2点

神聖な仕事ぶりが、

C ○2点

日本の職人の完璧な仕事につながっているということ。

(45字)

◎採点のポイント

A 「神との接触を感じさせる」(2点)

※神との関係性の説明(第三段落より)。

○「神との接触が成り立ち、維持され、保ち続けられた」も可。

B 「神聖な仕事ぶりが」(2点)

※神との関係性の説明(第四段落より)。

○「聖なる感情を維持した仕事ぶりが」も可。

C 「日本の職人の完璧な仕事につながっている」と「と」(2点)

※完璧な仕事ぶりへの驚きの指摘。

△「日本の職人の完璧な仕事」が維持され、保ち続けられているということ「は」、「維持され、保ち続けられる」ものは神との接触であり、若干の誤解が生じているので▲1点減点で△1点。

△「日本の技術力に結びついている」は、自分なりの言葉に置き換えているが、その技術力の高さに触れていないので▲1点減点で△1点。

問四 6点

口

※解答通り

問五 8点 (模範解答例)

A ○2点

かつては当然のこととしてなされていたが、

B ○2点

工業化・情報化した現代では、

C ○2点

かえって新鮮に感じられる、

D ○2点

自らモノを作るといふ労働。

(60字)

◎採点のポイント

A 「かつては当然のこととしてなされていたが」(2点)

※「古くて」の言い換え。

○「昔からあるが」「昔のあり方だが」も可。

×「今は行われなくなった」は、今の状況を説明しているので×0点。

B 「工業化・情報化した現代では」(2点)

※現代のあり方についての説明。

△「経験の断片化、身体の一部品化」は、問四で内容説明を求めている表現をそのまま使っているので▲1点減点  
で△1点。

C 「かえって新鮮に感じられる」(2点)

※「新しい」の言い換え。

×「新しく見える」「目新しい」は、「新しい」そのものを言い換えていないので×0点。

D 「自らモノを作るといふ労働」(2点)

※「労働」の内容の説明。

○「自分で使うものを自分で作るという労働」も可。

問六 6点

## 生きることの全体を結ぶ

※解答通り

問七 12点 (模範解答例)

A ○2点

近代の合理的な自然科学の方法によらない、

B ○2点

レヴィイストロースが説く、ありあわせの材料を組み合わせて

C ○2点

創意工夫して作り出すという考えとは異なる、

D ○2点

現代の高度な技術に裏づけられた、

E ○2点

複数の他者と情報を共有しながら、

F ○2点

自らモノを作り出していくという思考。 (116字)

◎採点のポイント

A 「近代の合理的な自然科学の方法によらない」(2点)

※近代の発想とは異なることの説明。

○「近代の合理性によらない」も可。

※「近代」「合理」の二成分が揃っていれば加点する。

B 「レヴィイストロースが説く、ありあわせの材料を組み合わせて」(2点)

※レヴィイストロースのブリコラージュの説明。

※「組み合わせ」の要素がなければ×。

△「レヴィイストロースが説く」が抜ければ1点減点

×「抽象化せずに作り上げる」は、「ブリコラージュ」が「組み合わせ」によるものであることを説明していないので×0点。

C 「創意工夫して作り出すという考えとは異なる」(2点)

※レヴィイストロースのブリコラージュの説明。

○「試行錯誤を通じて作り出すという考えとは違い」も可。

D 「現代の高度な技術に裏づけられた」(2点)

※現代のブリコラージュの説明。

※「現代の」は不問。

○ 「新しい表現を技術と結びつけ」も可。

× 「人と情報が結びつき」は、「ブリコラージュ」の組み合わせの内容を誤解しているので×0点。

× 「工業化によって」は、現代の最新の状況を言い当てていないので×0点。

**E 「複数の他者と情報を共有しながら」(2点)**

※他者との共有があることの説明。

※「複数の」は不問。

**F 「自らモノを作り出していくという思考」(2点)**

※自ら作ることの説明。

△ 「自ら新しいことを生み出そうとする思考である」は、「モノ」以外も指してしまうので△1点減点で▲1点。

第二回有名大記述模範採点基準 (第3問 古文)

問一 ㊸ おおとのしもじり ㊹ じもく ㊺ くろくひのうらみ ㊻ おとど (1点×4)

問二 (5点×2)

a (2点) b (3点)

問二・A・模範解答例 もつともなことだとお聞きしました。(5点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント2箇所。

a 「もつともなこと」…2点。「もつともなこと」「道理であること」「理にかなったこと」の内容。

b 「お聞きしました」…3点。

「聞く」の謙譲語。「うかがいました」は良し。「承りました」「承知した」は1点。「理解しました」は2点。

a (3点) b (1点) c (1点)

問二・B・模範解答例 見舞いにいらっしゃるのである。(5点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント3箇所。

a 「見舞い」…3点。「見舞い」の意。

b 「いらっしゃる」…1点。「来」の尊敬語。+「来られる」も可。

c 「のであろう」…1点。

「のであろう」のような断定+推量の意。「いらっしゃるだろう」は推量の意だけなので表現不足とする。

問三 内 (二)の答え以外は×。4点

問四 5点

a (2点) b (1点) c (1点) p (1点)

問四・模範解答例

危篤の状態で臥せていたのに、兼通が「起こせ」と言ったから。(三〇字) (5点)

【各部の採点】 5点満点。加点ポイント4箇所。

a 「危篤の状態で臥せていたのに」…2点。「死にかけているような(兼通)が」の内容でも可。

b 「兼通が」…1点。「兼通が」「堀河殿が」のような主語の補足。「人」ではダメ。

c 「「起こせ」と言った」…1点。「『起こせ』と命じた」でも可。



p 「から」……………1点。

「ので・から・ため」のような理由説明。この箇所だけ正解では得点しない。

問五 ニ・へ (順不同) (2点×2)

問六 ホ (5点)

問七 一つ目 (最初) 年頃仲 (終わり) にこそ

二つ目 (最初) 御前に (終わり) となり (完答) 3点×2

※順不同

問八 10点

問八・模範解答例

a (3点) b (3点)

c (3点) d (1点)

兼家の関白就任を阻止する意図。(四七字) (10点)

【各部の採点】 10満点。加点ポイント4箇所。

a 「頼忠を関白に任命し」…3点。「他の者を関白にし」は2点。「頼忠」のないものは1点の減点。

b 「兼家を大将から治部卿に降格させることにより」…3点。

兼家の地位を下げるだけでは2点。「大将から治部卿に」の記載がないものは1点の減点。「降格・下げる・左遷する」のニュアンスを感じ取ることのできないものはマイナス3点。

c 「兼家の関白就任を阻止する」…3点。兼家を関白にさせないの意。

d 「意図」…1点。文末処理。ただ、ここだけ正解では加点しない。「ため」でも可。

問九 ニ (2点)

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 【解答通り】 各2点 2点×4=8点

模範解答

a 〓もとより      b 〓ついに      c 〓もして      d 〓すでにして

採点基準

- ・ 歴史的仮名遣いは1点。 例 a 〓 つひに
- ・ d は「すでに」は不可。

問二 各5点 5点×2=10点

模範解答

i 〓 あやまちを あらたむるに はばかり (こと) なかれ (と)

採点基準

- ・ 漢字を使った場合は、1カ所につき1点減点。  
4カ所とも漢字を使用している場合も合っていたら1点。
- ・ 文が不完全なものは、0点。
- ・ a 「過ちを」：漢字を使っている〓1点減  
「過を」：漢字使用と送り仮名不足〓2点減点  
「かを」：読み違い〓1点減点
- ・ b 「あらためるに」：口語〓1点減点  
「あらたむる(こと)を」：目的語としている〓1点減点  
「あらたむる」：助詞不足〓2点減  
「かいするに」：読み違い〓1点減点  
「かいするを」：読み違い・助詞違い〓2点減点
- ・ c 「たんする」：読み違い〓1点減点  
「なし」：禁止していない〓2点減点  
「勿れ」「勿かれ」：漢字使用〓1点減点

模範解答

ii 〓 犯した過失を 改めるのに ためらっては いけない

採点基準

- ・ 文が不完全なものは、0点。
- ・ a 「犯した」はなくても可。
- ・ 「あやまち」を「過失」「失敗」「間違い」など置き直していない場合も可。
- ・ b 「あらためることを」と目的語としている場合：減点1点
- ・ c 「はばかり」のまま〓1点減点
- ・ d 「禁止していない」〓2点減点

問三 8点

模範解答

a 1点

b 2点

c 1点

d 1点

過ちを反省して 行動を改めた人を、  
以前やっていたことと違う、表面的にごまかして

e 1点

f 2点

世間をだましていると 批判している。

採点基準

a 「過ち」＋「反省」（悔いる）

b 「行動」「考え方」などがなく「過ちを改めた」は a b 合わせて1点とする  
「改心した人」などは2点。

c 「本来の性格ではない」なども可。

問四 【解答通り】 5点

解答 || ホ

問五 【解答通り】 5点

解答 || 五行

問六 各3点 3点×2＝6点

模範解答 X || 財産（財宝）

Y || 本性（善性・徳目）

採点基準

- ・ Xは「宝物」「財力」「資産」なども可。
- ・ Yは「性格」「性質」「真性」「道徳」は1点。「気質」は不可。

模範解答

a 3 (1+2)点

Ⅱ 人間は 過ちを犯す存在であるが、  
b 2点

本来の善い性質を取り戻して

c 3点

あるべき姿に戻ることができるといえる。

採点基準

- ・ a 「人は」「人間は」に1点、「過ちを犯す」に2点。
- ・ b 「本来の」または「善い」はなくとも可。  
「本質を取り戻す」も可。
- ・ c 「新しい自分になる」などは0点。  
「元の状態」は2点。
- ・ b cを通じて「本来の性質・状態」が「善いもの」である点がよみとれる必要がある。ない場合は減点1点。(説明が不正確Ⅱ「道徳心」のように解釈しているものも減点1点。)